

—— 月刊 新エネ ニュース ——

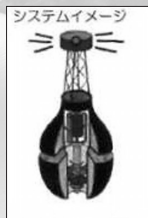
波の谷間に電気の花が～♪



新エネルギーは地域の特性を活かして、活用されていないものをエネルギー源として有効活用していくことに意義があります。例えば、日当たりの良い地域は太陽光、風の強い地域は風力発電、山林の多い地域では木質バイオマスなど地域によって、新エネルギーとして取り組むものも違ってきます。

岩美町の特性を活かすという意味で、日本海の荒波を利用した波力発電なども面白いと思います。こちらは天候に左右されず、波が自然に作られる点がメリットです。しかし、導入する費用も高く、発電電力も少ないため、現在取り組むのは難しい状況です。ちなみに、新エネニュースの中で紹介しましたが、国の基準ではまだ研究段階であるため、新エネルギーの区分には含まれていません。

今は、船の航路表示用のブイなどに使われていますが、波の谷間の電気の花はしばらく漁り火にまかせましょう。



豆知識

担当者の私も勘違いしていたのですが、「波力発電」は岸に打ち寄せる波の力を使うのではなく、波によって起こる海面が上下する動きを利用して、押し出される空気でタービンを回して発電するのです。

【問い合わせ先】 自立推進課 ☎73-1412

シリーズ

わが家の 防災

Vol. 3

地震対策

安全に避難するために

避難のタイミングを見逃さないように

大地震が発生し、家屋内にとどまることが危険な状態になった場合はすばやく避難する必要があります。「まだ大丈夫」と思うのではなく、少しでも危険を察知したら早めに避難するようにしましょう。

避難のタイミング

- 町から避難勧告や避難指示が出たとき（高齢者など避難に時間がかかる人は避難準備（要援護者避難）情報が出たとき）
- 津波、土石流、がけ崩れ、地すべりなどのおそれがあるとき
- 建物が倒壊する危険性があるとき
- 近隣で火災が発生し、延焼の恐れがあるとき
- 自宅で火災が発生したとき
- 危険物が爆発する恐れがあるとき

安全な避難のポイント

避難する前にもう一度火の元確認を。電気のブレーカーも切りましょう。
避難は必ず徒歩で（山間部など一部を除く）。車やオートバイは禁止！
高齢者や子どもはしっかりと手を握り誘導しよう。避難は指定された避難場所へ。近所の人たちと集団で行動しよう。
移動するときには狭い道、塀のそば、川べりを避けよう。

災害時の家族の安否確認

NTT災害用伝言ダイヤル「171」を利用する
（震度6以上でサービス開始、事前契約は不用です。）

災害用伝言ダイヤル171の使い方

1 7 1

→ 伝言を録音するときは [1] → ○○○○ - ○○ - ○○○○ → 伝言を吹き込む
被災地の人は自宅の電話番号を、被災地以外の人には被災地の人の電話番号を市外局番から入力

→ 伝言を再生するときは [2] → ○○○○ - ○○ - ○○○○ → 伝言を聞く